

年末年始 イベントで大忙し

食のフェスタ&クリスマスコンサート

昨年の感動をもう一度と、実行委員会をつくり、準備してきた明舞まちづくりサポーター会議主催、ひまわり会共催の「食のフェスタ&クリスマスコンサート」が、12月17日の日曜日、松が丘ビル3階の大・中会議室で開かれた。

コンサートは前年と同じく、南多聞台福音教会の吉川牧師が企画・進行を担当、地元の児童合唱団、お母さんたちのハンドベル、プロのタップダンス、知的ハンディを持つ神戸光生園の方々のクリスマスシルエットと多彩なプログラ

ムで進められた。キリストの生誕にまつわる影絵の劇に目頭をおさえる人もあり、昨年について今回も感動的な場面が展開された。

ひまわり会が担当した「食のフェスタ」は、「食と健康」の展示をはじめ、男性料理教室の受講生とボランティアの合作による料理の試食と盛りだくさんの内容だった。3回にわたった料理教室ですっかり顔なじみになった人たちは、朝早くから豚汁、ロールサンド、炒め生春巻きなどのメニューに取り組んだ。120本の炒め生春巻きに挑戦したHさんは「ひまわりのお弁当でこのメニューの時は、いつでも手伝いますよ」と自信のほどを見せていた。

今年も恒例の新春餅つき大会でスタート

ひまわりが明舞団地で活動をはじめてから今年で3回目になった新春恒例の餅つき大会は、明舞センタービル前広場に釜、蒸籠や石臼を据え、ひまわりのボランティアを中心に、明舞まちづくりサポーター、自治会、商店会のメンバーによるチームワークもすっかり定着し、63キロのもちを朝から4時間足らずでつきあげた。つきあがった餅は、すぐ横で女性のメンバーらが小もちにまるめ、買い物帰りの住民が一時は行列をして持ち帰った。



あかし市民活動見本市に参加

明石市内の市民活動団体が一堂に会して、それぞれの活動を紹介し、市民活動への参加を呼びかける「あかし市民活動見本市」が1月27日、大久保駅前の明石市立産業交流センターホールで開かれ、明舞ひまわりも活動を紹介するパネルを展示して参加した。

子育て、高齢者・障害者、環境、文化、まちづくりなど多彩な市民活動に取り組んでいる団体約60団体が参加し、明石市内では初めて開かれた。ひまわり会も参加している「あかし市民活動団体協議会」が準備をかさねていたもので、明舞ひまわりは食事サービスはじめ多彩な食を通じたコミュニティーづくりの活動



をどのように紹介しようかと、スタッフが高校の文化祭の気分で規定のパネル台紙に写真や資料を貼り付けて完成させた。当日は入江代表はじめスタッフ5、6名が会場に詰めて、来場者に説明して呼びかけた。

家庭だんらんの名コックに

ひまわりの「男性料理教室」を受講して

昨年1月から通っている「低カロリー食堂」ひまわりの主催で、料理教室が秋に始まった。初回は600カロリーの和食料理、50歳から70歳台の男性8名。しゃれた三角巾・エプロンがけで大石講師の熱心な指導で始まる。

レシピに従って旬の食材は、丁寧に刻み捌かれ、味付けの手ほどきのなかに煮立っていく。和食膳の深皿、小鉢の配列に美的ルールを覚える。師走にはおせち料理の800カロリー。ぜいたくな八幡巻きの仕上がり、人参の梅花模様の巧みさ、それぞれの持ち場で調理する。孫の食育学習への励ましができる。おじいちゃんは家庭だんらんの名コック。(伯野洋一・81歳)



これからの明舞ひまわりの予定

- 2月18日 第4回男性料理教室(まちづくり広場)
- 3月上旬 出前講座「キッズクッキング」神陵幼稚園
- 3月下旬 第5回男性料理教室「野草採取と野草料理」

法政大学現代福祉学部の学生がひまわりへ再研修

昨年夏ひまわりへ研修に訪れた東京の法政大学の学生たちが1月29日、再度ひまわりへ研修に訪れた。

東京・多摩団地の調査に取り組んでいる法政大学保井ゼミの学生20名のうち、今回は、横浜在住の高田悠紀さんら3名が、はるばる首都圏からエプロンや三角巾を持参して「1日研修」にやってきた。厨房での調理、食堂でのサービス、配食車に同乗してお弁当の配達と、フル回転の一日だった。「ベッドを離れられないひとり暮らしの高齢者への声かけや、お弁当を待ちわびてにっこり受け取る男性独居高齢者などに直接触れることができてなよりの収穫でした」と、にこやかに帰っていった。

黒田裕子さんを講師にボランティア研修

地域のニーズに応えるという「ひまわりの日々」は、ボランティアたちにとってはまさに戦場。元気な声が飛び交うなかでお弁当は作られていくが、日常はゆっくり立ち止まって話し合ったり、意見交換する暇もない。質の高いサービスには、ボランティアの質の向上も求められる。

そこで、ひまわり会の理事でもありNPO法人・阪神高齢者・障害者支援ネットワークの理事長でもある黒田裕子さんを招いて10月18日と11月15日の2回にわたってボランティアの研修会を開いた。黒田さんは講演や講義、指導、そして被災地の支援で全国的に飛び回っている毎日だが、そんな忙しい中でひまわりのために時間をつくってくださり、貴重な示唆をいただいた。

4年目の食堂 大改装、ひろびろ

明舞ひまわりは4年目に入って店舗内のスペースの見直しをおこない、手狭な食堂空間を一部改装した。

2月10日からの3連休を利用して、店内野菜売りのスペースをややコンパクトにして、食堂内のカウンター付近のスペースを広げた。これまで、カウンターの席は喫茶のサービスカウンターやレジ、配食準備の事務スペースなど混在して、カウンター席に座ったお客さんにも窮屈な思いを強いていたが、カウンター席でもゆっくりと食事していただけるようになった。

ボランティアの言葉...

笑顔が嬉しくて

果たしてお役に立てるかなと不安な気持ちがいっぱいで飛び込んだ「ひまわり」。ようこそ、どうぞ、どうぞ、と皆さまの笑顔に迎えられ、温かい雰囲気のなかで、毎日多くのことを学ばせていただいている。

朝一番「おはよう」の笑顔。お客さまからの「おいしかったよ」の笑顔。ちょっと遅めのスタッフが一緒に昼食も、笑顔でいっぱい。夢中で食事づくりに没頭してペコペコだったお腹も、やっとな腹。お昼の後片付けをして、私の役割は終了。また、これからは夕食の配食が控えている。朝早くから遅くまでフル稼働にもかかわらず、「お疲れ様」と常勤スタッフから笑顔で見送っていただく。いつも、たくさんの元気をもらって帰る。この笑顔のやりとりが嬉しくて、またこの次も頑張ろうと思う。(H・N)